音楽科学習指導案

大阪教育大学教員養成課程 兼平佳枝

【準備】

・柱は七＝ラを基準とし、13 絃全て平調子に調弦しておく。
・爪有り（親指のみ）
・2 人で 1 面
・教師用には都節音階、琉球音階、ホ長調に調弦した箏を各一面

１．指導内容

〔共通事項〕音階（都節音階）と曲想

「指導事項」(3) 音楽づくり　ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)

２．単元名　：都節音階を意識して《さくらさくら》の前奏をつくろう

３．対象学年：小学校第６学年

４．教　材　:《さくらさくら》日本古謡

５．教材について

【音楽の背景】

《さくらさくら》は、明治 21 年出版の「琴曲集」に箏の入門曲として発表された楽曲である。小学校第４学年の歌唱共通教材でもあり、日本で古くから親しまれてきた旋律であり、都節音階でできている。都節音階の起源は、遣隋使や遣唐使によって中国からもたらされた呂旋とされている。日本人にとってわかりづらかった呂旋は、朝廷の楽制改革等によって日本で独自の発展を遂げた。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

《さくらさくら》は平調子に調弦した箏で演奏される。平調子は箏の調弦法のひとつであり、日本伝統音楽の特徴のひとつである都節音階が基調となっている。そこで、一度聴いただけで南国感や沖縄の雰囲気を感じることのできる琉球音階と比較することで、都節音階を知覚・感受することが容易になると考えられる。各自がつくった前奏を、都節音階によって生じるさくらのイメージに合うようにペアで繋げていく活動の過程で、モチーフの順番を入れ替えたり、速度や強弱等を工夫したりして、つくって演奏するための技能を身に付けさせたい。

６．指導計画：（全４時）

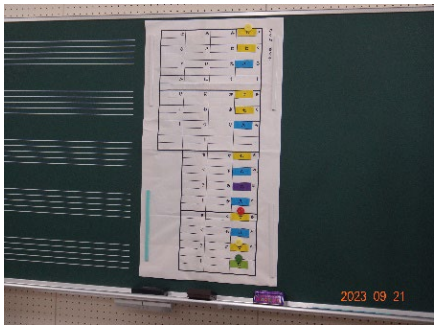
ステップ	学　習　活　動	時数
経　験	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」で《さくらさくら》を弾く。 《さくらさくら》の前奏をつくり、都節音階に気づく。	1
分　析	都節音階を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。	2 3
再経験	イメージを表現する工夫への手がかりを基に、都節音階を意識して、ペアで《さくらさくら》の前奏を工夫してつくり、演奏する。	
評　価	自分たちがもったイメージが伝わるように、ペアで発表する。 都節音階についてのアセスメントシートを記入する。	4

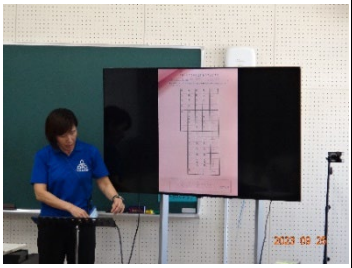
７．単元目標・評価規準

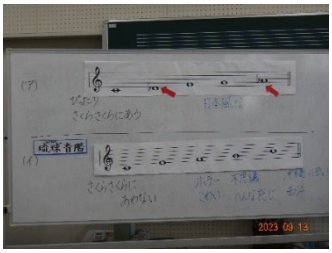
評価の観点	単元の評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	都節音階について理解し、イメージが伝わるように《さくらさくら》の前奏・後奏をつくる。	★①都節音階を意識し、自分たちの桜のイメージが伝わるように工夫して音楽をつくっている。 ★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。
思考・判断・表現	都節音階について知覚し、そこから生み出される特質を感受する。 都節音階を意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。	①都節音階を知覚・感受している。 ★②都節音階を意識し、イメージが伝わる前奏・後奏の音のつながりを工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	都節音階に関心をもち、意欲的に《さくらさくら》の前奏をつくる。	①音楽づくりのルールに従い、意欲的に前奏づくりに取り組んでいる。 ★②都節音階に関心をもって前奏づくりに取り組んでいる。

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価規準を示している。

８．展開

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経 験	箏の基本的な奏法「しっかり弾き」で《さくらさくら》を弾く。		
■《さくらさくら》の旋律を思い出して探り弾きさせる。	１．《さくらさくら》を思い出して弾く。 T：《さくらさくら》の旋律は思い出してきましたね。では、七の絃から始まります。思い出しながら弾いてみましょう。 	●「５年生の時に箏で《さくらさくら》を弾いたのを覚えていますか？」と言って２人に１面、七＝ラで平調子に調弦した箏を配る。 ●「まず《さくらさくら》の歌を歌いましょう。」と言って歌詞を掲示して歌わせる。 ●七から始めてペアで探り弾きするように促す。 ●探り弾きで音を見つけた音を確認しながら全体で数字譜を共有する。	
■箏の基本的な奏法「しっかり弾き」で《さくらさくら》を弾けるようにさせる。	２．ペアで交代しながら、自分なりのさくらのイメージをもって《さくらさくら》を弾く。 	●箏の基本的な奏法「しっかり弾き」を意識するように促すが、完璧を求め過ぎないようにする。 ●ペアで弾かない子どもには、数字譜を歌うように促す。	

■都節音階に気づかせる。 	３.《さくらさくら》の各自２小節の前奏をつくり、概ねできた段階で《さくらさくら》の冒頭部分と繋げて弾く。 T：今日は、みなさんにこの《さくらさくら》の前奏をつくってもらいます。 C：え～！ C：難しそう。。。 T：実は、そうでもないんですよ。今から、つくり方のルールを話しますね。	●ワークシート①を配付する。 ●ワークシートを見ながら創作のルールに沿って、教師がデモンストレーションしながら解説する。 （例：(1)リズム①③を選び１小節目を①2 小節目を③にするか、または逆にするかを決める、(2)選んだリズムに四から九の音をルールに沿って並べてみる、(3)実際に箏で弾いて聴かせて感想を問う、等。さらに、実際に音を並べた段階でリズムを逆にすると感じが変わるかを試させるのも良い。） ●前奏から冒頭部分をつなげて弾かせ、どんなイメージがするかを問う。	主体的に学習に取り組む態度①（観察）
◆つくった前奏についてのイメージをもたせる。 	５．前奏の発表を聴いて、感想を交流する。 T：Aさんの前奏を聴いて、何か桜の様子でイメージできることはありますか？」「さくらがどんな様子で咲いているかな？ C：（演奏を聴き終え）満開に咲いている桜。 T：なるほど。つぎ、Bさん、お願いします。 C：：（演奏を聴き終え）桜が枯れて散った花弁が川に流れていく感じ。 T：なるほど。どれもステキなイメージでいい前奏ですね。	●できた前奏を数人の児童に発表させる。 ●発表の際は、つくった前奏に続いて、皆で《さくらさくら》の１フレーズ目までを弾くように伝える。 ●発表を聴いた感想を問い、交流する。 ●イメージが出にくそうな場合は、桜のいろいろな写真を見せる。	
分 析	**都節音階を知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。**		
■都節音階を知覚･感受させる。 	６．２種類の前奏を聴いて、気づいたことや感じたことをワークシート②に記入する。 T：今から、先生が〇〇さんのつくった前奏を２種類のお箏で弾きます。それぞれ気づいたこと、感じたこと等を考えながら聴きましょう。あとで教えてもらいます。 C：（ア）は《さくらさくら》に音が合っていて、〇〇さんが言った満開に咲いている桜な感じ。（イ）はなんだか音が変で《さくらさくら》に合わない。沖縄っぽい感じ。	●活動５での児童の発言を取り上げながら「どれも、桜の色々な様子の桜がイメージできて素敵でしたね。では、なぜ、どの演奏もしっくりきたのでしょう？」と問い、活動５で発表されたものから １ つ取り上げ、その子どもにイメージを言わせてから演奏する。 ●取り上げた前奏の楽譜を掲示する。 ●（ア）都節音階で調絃された箏で弾いたものと、（イ）琉球音階で調絃された箏で	思考・判断・表現①（ワークシート②）

		弾いたものを比較聴取させ、ワークシート②に記入させる。 ●ここでは前奏から続けて《さくらさくら》の冒頭までを演奏する。	
■知覚・感受した内容を共有させる。  	７．ワークシートに書いた内容について発表し合い、イメージを広げる。 T：実は、（ア）と（イ）のお箏はこんな音の並び方になっていたのです（楽譜を掲示し、実際にお箏の音を鳴らしながら確認する）。 T：みんながこれまで《さくらさくら》を弾いたり、前奏をつくったりしていたのは、(ア)(イ)のどっちのお箏かな？ C：(ア)！ T：そうですね。この(ア)のお箏の音の並び方を「都節音階」と言います。《さくらさくら》は都節音階の音楽だから、みんながつくった前奏はどれもしっくりときたのですね。それに対して、(イ)は音の並び方が違うから、なんか《さくらさくら》と合わなかったのですね。沖縄っぽいという意見にもあったように、（イ）のような音の並び方を「琉球音階」と言います。	●（ア）（イ）に対する子どもの発言を、知覚したことと感受したことの対応関係がわかるように板書する。 ●構成音に関する発言や「沖縄っぽい」のような発言を取り上げ、必要に応じて音楽に帰しながら２つの音階を楽譜で確認し、（ア）「都節音階」、（イ）「琉球音階」という用語と共に示す。 ●「都節音階の起源は、もともとは奈良時代に中国から日本に伝わりました。でも、当時の日本人には難しく馴染みがなかったので、平安時代の朝廷の指示で日本独自に変化・発展を遂げ日本独自の音の並び方なのです。皆が最初、和風のイメージと言っていたのも、日本人が自分達に合うように独自に発展させてきた都節音階が使われていたからなのですね。」と都節音階の文化的背景について伝える。	
■各自の作った前奏のイメージを確認させる。 	８．お互いのつくった前奏を聴き合い、イメージを交流する。 T：みなさん、それぞれのイメージで前奏をつくってくれましたね。では、友達の前奏はどんな桜がイメージできるかな？ペアになってお互いの前奏を聴き合い、イメージを伝えあいましょう。 C：私は満開の桜のイメージです。♪（A さんが演奏する。） C：お～、なんか、わかる。 T：どんなところから？ C：カラリンが最初と最後に入っていたから。 T：なるほどね、拍手！	●「都節音階を使ってつくった友達の前奏はどんなイメージかな。」と問い、ペアでお互いの前奏を聴いてどんな桜の様子が思い浮かぶか、イメージを伝え合うよう促す。	

■ペアで前奏をつなげてイメージを表現していく手がかりを得させる。 	９．ペアで前奏をつなげて聴き合い、イメージを交流する。 T：では、今度はつくった前奏をペアで繋げて長い前奏にしてみましょう。A さん、B さん、協力してください。イメージを言ってから《さくらさくら》の１段目まで続けて演奏してもらえますか。 C：♪（A さん、B さん、各自が演奏する。） T：なるほど。では、繋げたらどうなるでしょう？イメージが変わるかな？ C：A→B で繋げたら桜が咲き始めた感じになった。 T：なるほど。では、A さんと B さんの順番を入れ替えたらイメージが変わるかな？ C：今度は暗い感じから明るい感じになった。 T：それぞれイメージをもってつくった前奏だけど、こんな風に順番を変えるとイメージが変わるのですね。順番によっては音を変えたくなるかもしれませんね。	●抽出児童の前奏のイメージを確認した後、A と B を繋げた演奏を聴いて、感想を交流させる。 ●出た意見を取り上げ、繋げ方によってイメージが変わることをクラスで確認・共有する。	
再経験	**メージを表現する工夫への手がかりを基に、都節音階を意識して、ペアで《さくらさくら》の前奏を工夫してつくり、演奏する。**		
■イメージが伝わるように表現を工夫させる。	１０．ペアでつなげた前奏のイメージが伝わるような弾き方を、話し合いながら考え、試す。 	●「では、ペアでどの順で演奏するか試してみましょう」と言って、演奏順を決めさせる。 ●ペアで通して前奏《さくらさくら》の冒頭まで演奏した時のイメージを交流させ、そのイメージをもとに、ペアでタイトルを決めさせる。 ●タイトルが決まったら、ペアで１枚のペアワークシートに記入させ、「タイトルにあるようなイメージは伝わりそうかな？」と問いかけ、「ペアで相談しながら、タイトルのイメージが伝わるように弾いていきましょう。」と言って、ペアで前奏から《さくらさくら》の冒頭フレーズまで弾いていくように促す。 ●ペアで相談し、聴き合いながら、前奏・後奏の表現を工夫させる。 ●アイデアが出たら、すぐ	

		に弾いて試してみるように促し、試してみて納得できたらそれを付箋に記入し、ペアワークシートに前奏を数字で記入していくように伝える。 ●机間指導をする中で、イメージが伝わるように速度や強弱等を工夫することを促すとともに、「ペアで順番をいれかえたい」、「リズムを変えたい」等の提案があれば、イメージが伝わるのかどうかを聴いて確認するように促す。 ●必要に応じてタブレット端末で録音・再生して確認させる。	
■作品の交流を通してイメージを表現するための工夫に気づかせる。	１１．中間発表をする。	●音やリズムを変えたり、奏法の工夫をしたりしているペアを２～３ペア取り上げて、イメージを言わせてから発表させる。 ●そのイメージが音楽のどんなところから伝わってきたかを交流し、工夫の内容（速度、強弱、奏法等）について必要に応じて音楽の言葉で確認して参考できるようにする。	★主体的に学習に取り組む態度②（観察）
■表現へのヒントを得させ、意欲を喚起する。	１２．中間発表によって得たヒントを参考に、さらに自分たちの表現を工夫していく。	●発表されたペアも参考にしながら、ペアとして繋げた前奏を完成させるように伝える。	★思考・判断・表現③（観察・ワークシート）
評 価	**自分たちがもったイメージが伝わるように、ペアで発表する。 都節音階についてのアセスメントシートを記入する。**		
■作品の交流を通して他者の作品のよさに気づかせる。	１３．ペアごとに発表する。	●１ペアずつ、イメージを言わせてから《さくらさくら》の冒頭まで発表させる。 ●発表後、ペアの演奏について、イメージが伝わってきて良いなと思ったところを交流させる。	★知識・技能①（演奏）

■都節音階についての振り返りをさせる。	１４．都節音階についてのアセスメントシートに答える。	●教師があらかじめつくっておいた《さくらさくら》の前奏を、都節音階と琉球音階で比較聴取させ、アセスメントシートに記入させる。	★知識・技能②（アセスメントシート）

◎本学習指導案は、以下の学習指導案を参考にしている。

小島律子編著（2015）「4. 実践事例(3)　―継承から創造につなげる伝統音楽の授業―』あいり出版，pp.228-236

高田遥（2022）「都節音階を意識して《さくら　さくら》の前奏をつくろう」大阪教育大学附属平野小学校「春の指定授業」配付資料

参考文献

『日本音楽基本用語辞典』（2007）音楽之友社，pp.14-15、pp.119-121、
小泉文夫（1958）『日本伝統音楽の研究１』音楽之友社

楽譜

五	五	五	七
六	四	四	七
八 七	五	五	八
六	六	六	丨
五	五	五	七
丨	五 四	五 四	七
丨	三	三	八
丨	丨		丨
	七	七	七
	七	八	八
	八	九	九
	丨	八	八
	七	七	七
	七	八 七	八 七
	八	六	六
	丨	丨	丨

実際に子どもが記入したワークシート①

《さくらさくら》の前そうをつくろう

6年 組 番 氏名

■《さくらさくら》の前そうをつくりましょう

〈音楽づくりのルール〉

●《さくらさくら》に用いられている4種類のリズム(赤いわく)から2つのリズムを選んでつくる。できそうな人は、それ以外のリズムを使ってもよい！
●十、九、八、七、六、五、四を、必ず1回は使う。
●隣り合う音以外には進めない。
●同じ音は２回まで連続で使ってもよい。

《さくらさくら》の前そうをつくろう

6年 組 番 氏名

■《さくらさくら》の前そうをつくりましょう

〈音楽づくりのルール〉

●《さくらさくら》に用いられている4種類のリズム(赤いわく)から2つのリズムを選んでつくる。できそうな人は、それ以外のリズムを使ってもよい！
●十、九、八、七、六、五、四を、必ず1回は使う。
●隣り合う音以外には進めない。
●同じ音は２回まで連続で使ってもよい。

実際に子どもが記入したワークシート②

ワークシート②

（都節 音階）を意しきして前そうをつくろう

6年 2 組　　番　　名前

■今から２種類のお琴で同じ楽ふの前そうをききます。それぞれ気づいたこと、感じたことを書きましょう。

（ア）都節 音階　　（イ）琉球音階

（ア）のお琴 気づいたこと	感じたこと
音があう だから	なめらかにつながる。 うっとりしてる。落ちついてる
（イ）のお琴 気づいたこと	**感じたこと**
音がはずれていた	音がへん 沖縄風？

ワークシート②

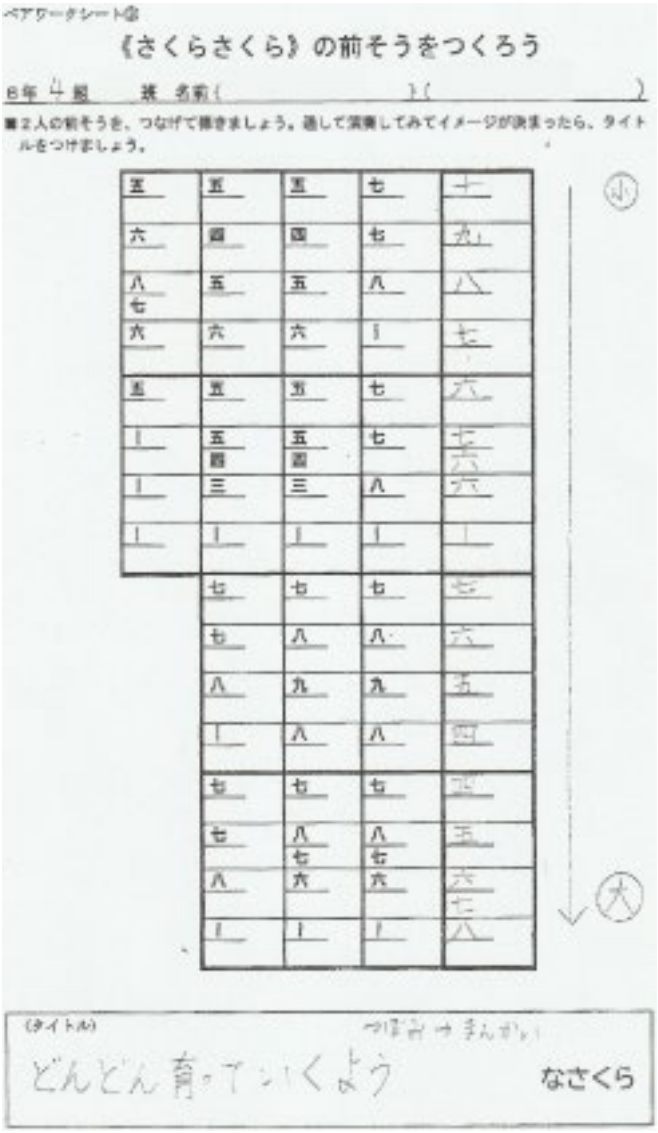
（都節音階）を意しきして前そうをつくろう

6年 4 組　　番　　名前

■今から２種類のお琴で同じ楽ふの前そうをききます。それぞれ気づいたこと、感じたことを書きましょう。

（ア）のお琴 気づいたこと	感じたこと
さくらさくらにつながっている。	和風
（イ）のお琴 気づいたこと	**感じたこと**
さくらさくらにつながっていない 合わない	沖縄っぽい

実際に子どもが記入したペアワークシート



ペアワークシート②

《さくらさくら》の前そうをつくろう

6年 4組　班 名前（　　）（　　）

■2人の前そうを、つなげて書きましょう。通して演奏してみてイメージが決まったら、タイトルをつけましょう。

五	五	五	七	十
六	四	四	七	九
八 七	五	五	八	八
六	六	六	一	七
五	五	五	七	六
一	五 四	五 四	七	七 六
一	三	三	八	六
一	一	一	一	一
	七	七	七	七
	七	八	八	六
	八	九	九	五
	一	八	八	四
	七	七	七	三
	七	八 七	八 七	五
	八	六	六	六 七
	一	一	一	八

小

大

（タイトル）　つばめ → まんかい

どんどん育っていくよう　　なさくら

ペアワークシート

《さくらさくら》の前そうをつくろう

6年 3組　班 名前（　　）（　　）

■2人の前そうを、つなげて書きましょう。通して演奏してみてイメージが決まったら、タイトルをつけましょう。

五	五	五	七	九	ピーヒャーで 弱め
六	四	四	七	八	やさしめ
八 七	五	五	八	七	
六	六	六	一	一	
五	五	五	七	六	やさしめ
一	五 四	五 四	七	七 六	
一	三	三	八	五	
一	一	一	一	一	
	七	七	七	七	やさしめ
	七	八	八	八	
	八	九	九	七	
	一	八	八	一	
	七	七	七	四	ちょと強め
	七	八 七	八 七	六	
	八	六	六	五	
	一	一	一	六	

（タイトル）

昼の満開　　なさくら

実際に子どもが記入したアセスメントシート

アセスメントシート

都節音階を意しきして前そうをつくって演奏しよう

6年4組　番　班　名前

■今から２種類の《さくらさくら》の前そうをききます。

どちらに都節音階が使われていましたか、都節音階が使われていた方に○をつけましょう。

また、それぞれどんな感じがするかを書きましょう。

①の前そう

②の前そう

①の前そうで感じたこと	②の前そうで感じたこと
さくらさくらに ピッタリあう。 しっくりする。	沖縄みたい さくらさくらにあわない。 しっくりこない

アセスメントシート

都節音階を意しきして前そうをつくって演奏しよう

6年4組　番　班　名前

■今から２種類の《さくらさくら》の前そうをきます。

どちらに都節音階が使われていましたか、都節音階が使われていた方に○をつけましょう。

また、それぞれどんな感じがするかを書きましょう。

①の前そう

②の前そう

①の前そうで感じたこと	②の前そうで感じたこと
力強い感じ。 和風	沖縄で流れそうな感じ。